エンジニアパーク　Engineer Ring Park

山田　　哲　農業部門（農業土木）

勤務先：株式会社ルーラルエンジニア

私は大学卒業後、農業土木のコンサルタントに就職し、同時に本社のある深川市へ移り住んで 10 年が経ちます。普段の業務は主に用排水路やポンプ場、頭首工などの農業水利施設の調査設計を担当していますが、近年ではストックマネジメントの導入による効率的な施設の保全と更新に関する業務が増えつつあります。

話題は大きく変わりますが、皆さんは海外へ出かけた時、現地の人から「仕事は何をしているか？」と尋ねられたら何と答えますか？　私は一応、技術屋ですから「エンジニアだ」と答えます。そうすると必ず「What kind?」と続きます。建設部門の方は「Civil Engineer だ」と回答できますが、農業土木が専門の私は即答できません。農業土木にはピタリと当てはまる英単語がありません。専門家の間では「NOUGYOUDOBOKU」は世界標準語として解されることもあるようですが、一般の方では理解されるわけはなく、「Agricultural Engineer」とか「Rural Engineer（当社の社名にもなっていますが、ルーラルエンジニアリングは農業土木に対する一つの訳語）」とか説明しても相手は合点が行きません。私の経験では、「Irrigation（灌漑）Engineer」と答えるのが最もしっくり伝わるようです。

司馬遼太郎氏の著書にも農業土木に触れた一節があり、農業土木は「この国のかたち」を土地に刻み込んできた歴史的な技術であり、その蓄積を含意していると改めて思います。これからも歴史的技術を引き継ぎつつ、新たな技術を習得する自己研鑽に励み、農業•農村のために社会貢献していきたいと思います。

次号は、大沢正人さん（建設部門）

元木　征治　農業部門（農芸化学；土壌及び施肥）

勤務先：北石狩農業協同組合

北海道生まれの北海道育ち。道立農業試験場で畑地かんがい、野菜・花卉（施設・露地）栽培の土壌肥料の試験研究及び未利用資源の利活用研究に従事。2003 年（平成 15 年）に退職後、現在の職場に入組。農協の営農指導（経営指導、農業技術指導等々多岐に渉る）に携わり 5 年目。担当の農業技術指導から見た農業の現状の一端を紹介します。

当農協は石狩北部の石狩川下流部の低平地が大部分を占め、道内有数の水田地帯であった。減反政策が始まって約 40 年経過し、畑作物や野菜への転作が徐々に増加、転作面積は過半を占めている。当初は転作奨励金目当ての捨て作り栽培が多く、農業技術指導に対して「笛ふけど踊らず」であった。近年、農業を取り巻く諸情勢の変化から、生産者は本腰を入れた転換作物栽培に取り組まざるを得ない状況に追い込まれ、さらに消費者の安全・安心への感心が高まりからトレーサビリティの記帳や農薬の取り扱いが一段と厳しくなり、これまで経験したことのない仕事が増えて困惑している。一方、経済のグローバル化から戦後農政の大変革を受け農産物価格が低迷、農業経営が一段と困難となり水田地帯の小面積農家が離農する現実があり、農村社会の崩壊が目前です。

このような情勢のなかで農業の将来展望は開けませんが食の確保は国家の基本であるとの考え、その基本となる農地を荒廃させず、安心・安全な食糧を生産する農業技術を的確に農業者に浸透させ、農業の継続を目指し、今後とも微力を尽くしたいと考えております。

次号は、佐藤久泰さん（農業部門）